

高森町 第二期タウンプロモーション 計画書

—この町を愛する町民と、関係人口を増やすために—

令和4(2022)年度～令和6(2024)年度

2022年3月

目次

1. タウンプロモーション計画の概要

- (1) 目的 2P
- (2) 計画策定に至る背景と位置づけ 2P
- (3) 実施期間 3P

2. 構成人員

- (1) 構成人員 4P

3. 取り組み内容

- (1) 第一期高森町タウンプロモーション計画の振り返り 5P
- (2) 第二期高森町タウンプロモーション計画の全体像 6P
- (3) 取り組み項目詳細 7P

1. タウンプロモーション計画の概要

(1) 目的

タウンプロモーションとは

タウンプロモーションという概念には、地方創生、観光振興、住民協働など様々な考え方が含まれています。タウンプロモーション計画に対する捉え方は多々ありますが、高森町で定義するタウンプロモーションは、次の2つを主軸に考えます。

- ・高森町を愛する町民を育て、増やす活動
- ・この町に関わる人やファン＝「関係人口」を育て、増やす活動

そのため、タウンプロモーションでは、地域のPRや自治体としての知名度向上が必要不可欠です。高森町のイメージを高め、地域資源を磨き上げ、出来るだけ多くの方に高森町を知ってもらい、足を運んでもらうことも大切な取り組みになります。

このように、高森町が考えるタウンプロモーションの取組みは、多方面に広がっていく能動的な活動であり、住民の皆様が主体的に当計画に関わっていただくことで成り立つ計画です。この計画書を共通言語として、一人でも多くの皆さんが、高森町の未来を築くためのタウンプロモーションに参画いただけることを願っています。

(2) 計画策定に至る背景と位置づけ

令和2年4月、「高森町第7次振興総合計画（まちづくりプラン）」（令和2年度（2020年）から令和11年度（2029年））が完成致しました。日本一のしあわせタウン高森（総合戦略）の終了期間に合わせて、まちづくりプランの計画期間を前倒し、まとまりがある1つの計画になりました。人口減少やリニア中央新幹線の開通等、大きな社会の変化が見込まれる中で、高森町が10年先に目指す姿や方向性をまとめています。

テーマは、**なりたい『あなた』に会えるまち**、高森町内の全21地区で実施したまちづくり懇談会や、中学生、高校生、飯田下伊那出身大学生等、幅広い年代の皆さんのご意見をもとに、将来像を決定致しました。

1. タウンプロモーション計画の概要

「高森町第7次振興総合計画（まちづくりプラン）」で示された将来像の趣旨は「住みやすい環境の中で自分自身が夢を持って、生き活きとした日々を送ること。それは「自分のありたい姿が実現できる」ことだと考えます。人の「しあわせ」のカタチや「価値観」はそれぞれですが、多様な価値観（なりたい自分）が実現され、一人一人の「しあわせ」が達成されること（自己実現できること）が、人生や心を豊かにしていく。そんなまちが「しあわせタウン」であると考えます。このコンセプトを大事に守りつつ新しい時代の流れを柔軟に取り入れ、より時代に合った住みやすいまちづくりを目指していきます。」とされています。

第二期タウンプロモーション計画は、「高森町第7次振興総合計画（まちづくりプラン）」にも掲げられる「タウンプロモーション推進」を具現化するための計画です。こうした位置づけを踏まえ、町民や行政をはじめ総てのまちづくりの担い手が共感・共有できる町の将来像と理念、仕組み、そして将来像を実現するために町民の有志で構成された第一期タウンプロモーション推進委員会による協議を重ねて策定されたものです。

（2）実施期間

本計画の実施期間は令和4（2022）年度から令和6（2024）年度までとし、毎年及び実施期間終了後には効果検証を行い、翌年以降の取組計画を立案します。

2. 構成人員

(1) 構成人員

本計画を推進する組織は町の公認委員会とし、名称を「第二期高森町タウンプロモーション推進委員会」とします。委員は第一期タウンプロモーション推進委員を中心に組織し、高森町産業課観光振興係が事務局となり計画推進を行ってまいります。推進組織の構成員は固定せず、参加を申し出る町民については随時受付し、同委員会で承認された人は参加できるものとします。

◎タウンプロモーション推進委員会体制

本委員会は、定例会議を継続的に実施し、3つの部会が具体的な取組を行ってまいります。タウンプロモーション計画の推進にあたっては、住民が一体となって高森町の魅力を作り出し、世の中に発信していくことが求められます。その為には、推進委員だけで本計画を進めていくのではなく、住民と計画を共有し、意見を出し合うことで取組を進めていく必要があります。

本計画に興味を持ち、第二期高森町タウンプロモーション推進委員会に参画したいと希望する方は、高森町産業課商工観光係までお申し出ください。

◎第二期高森町タウンプロモーション推進委員一覧（2022年4月現在）

推進委員会 会長	唐木 孝治
地域ネットワーク部会長	仲平 誠
コミュニケーション部会長	佐々木 賢
モノ・コト部会	片桐 源士郎
推進委員	小原 鈴子
	藤木 かほる
	赤羽 哲也
	藤木 聡

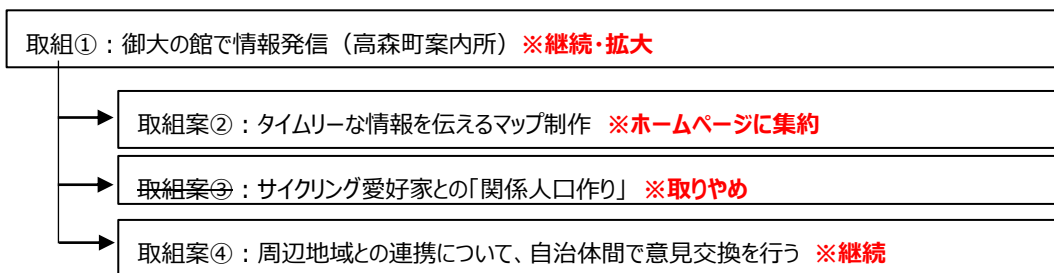
3. 取り組み内容

(1) 第一期高森町タウンプロモーション計画の振り返り

第一期の実施期間である平成31（2019）年度から令和3年（2021）度は、コロナ禍の影響を強く受けた期間でもありました。そのため、当初予定していた取り組みを変更せざるを得ない状況が多く生まれ、その都度委員会で話し合いながらコロナ禍でもできることを進めてきました。

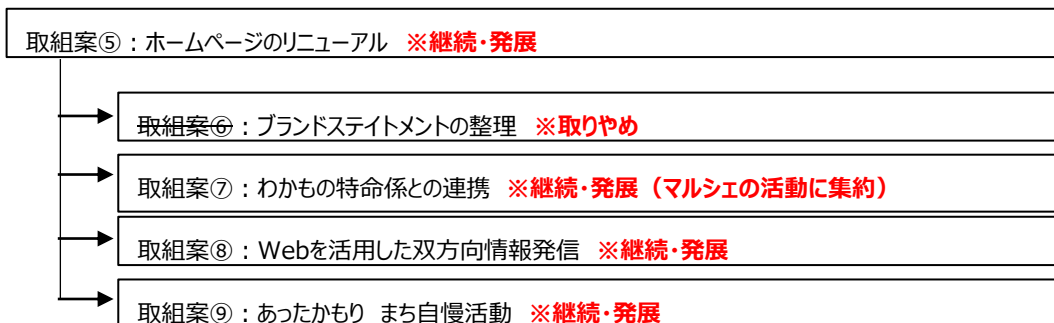
下図は、検討の結果二期に継続すべき項目と取りやめを決定した項目を示したものになります。二期ではこれらの礎を用いて、別途検討を進めるビジターセンター構想とも連携しさらなる関係人口創出に努めてまいります。

1. 地域ネットワーク部会（域内調整・情報収集）



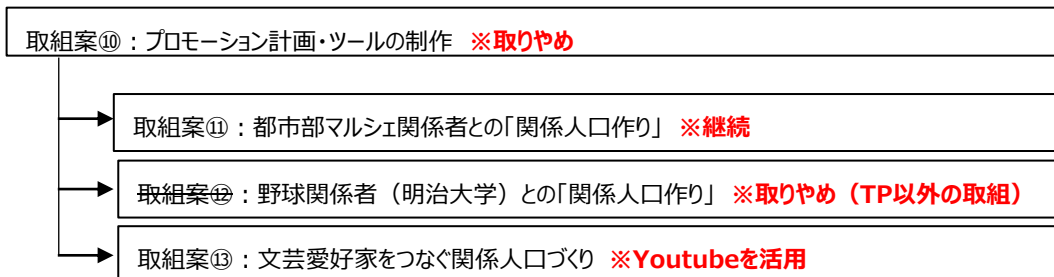
2. コミュニケーション部会（ブランド管理・情報発信強化）

あったかもりブランディングサイトを中心とした情報発信ツールの整備、運営。



3. モノ・コト部会（コミュニティ形成・産品PR）

高森町の資源を活かした関係人口作りの実働



3. 取り組み内容

(2) 第二期高森町タウンプロモーション計画の全体像

第二期高森町タウンプロモーション計画では、第一期で取り組んできた項目を基礎にアフターコロナを見据えたリアルの交流に軸足を置きます。

各取り組みの推進については各部会が中心となり、町民の協力を得ながら進めてまいります。

推進母体：第二期高森町タウンプロモーション推進委員会

→ 1. 地域ネットワーク部会（域内調整・情報収集）

取組案①：御大の館で情報発信（高森町案内所）

- ・ 受付カウンター等を利用した情報発信
- ・ 域内の最新情報を共有するための取組

取組案②：周辺地域との連携について、自治体間で意見交換を行う

- ・ 周辺自治体と連携して関係人口拡大に向けた取組を進める

→ 2. コミュニケーション部会（ブランド管理・情報発信強化）

取組案③：ホームページのリニューアル

- ・ 継続的な記事の作成
- ・ ホームページへの誘導施策

取組案④：Webを活用した双方向情報発信

- ・ Facebookアカウントの継続運用
- ・ Instagramアカウントの継続運用

取組案⑤：あったかもり まち自慢活動

- ・ フォトコンテストの継続運用
- ・ フォトコンテストとリアルの交流を掛け合わせた取組の検討

→ 3. モノ・コト部会（コミュニティ形成・産品PR）

取組案⑥：都市部マルシェ関係者との「関係人口作り」

- ・ マルシェの出展
- ・ 都内進学出身者、わかもの特命係との連携
- ・ 川崎市麻生区との取組の継続

取組案⑦：滞在型交流プログラムの造成

- ・ 農家体験を組み込んだツアープログラム造成
- ・ ワークーションの推進

取組案⑧：文芸愛好家をつなぐ関係人口づくり

- ・ Youtubeチャンネルの開設と配信者育成

3. 取り組み内容

(3) 取り組み項目詳細

◎地域ネットワーク部会構成員

- ・部会長 : 仲平
- ・部会員 : 赤羽

◎実施項目

項目	目的	内容	担当
1-1 御大の館での情報発信 (高森町案内所)	町民及び来訪者に対する 情報発信 町の情報を集約する機能 を備え、交流拠点とする	受付カウンター等を利用した情報 発信 域内の最新情報を収集し共有す るための仕組み作り	・赤羽
<p><内容詳細></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高森町を代表する観光施設であり、高森町に訪れる方々の玄関口としての役割を担うことが出来る「御大の館」を活用し、高森町情報発信のための拠点として役割集約を行なう。 ・フルーツ狩りの情報や、季節に応じた観光の紹介を行うほか、高森町に関する様々な相談を受け付ける窓口を目指す。 ・「高森町で仕事をしたい!」、「農業体験をしたい!」という方の相談窓口も設置。 ・問い合わせいただいた方に対しては、要望に合わせて柔軟に対応できる「コンシェルジュデスク」とする。 			
1-2 周辺地域連携	高森町の取組みを共有し、 周辺自治体連携につなげ る	意見交換の場づくり 周辺自治体連携による取組み の推進	・仲平
<p><内容詳細></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在連携している下伊那北部5町村（松川町・豊丘村・喬木村・大鹿村・高森町）や他団体との連携を視野に、一体化した事業推進について引き続き意見を交わす。 ・地域連携DMOである(株)南信州観光公社との積極的な連携方策について意見を交わす。 ・間近に迫るリニア時代を展望し、広域連携での観光振興からの地域課題解決により、この地域の人・自然・産業などの資源が光り輝く持続可能な南信州地域実現に向けて連携を深める。 			

◎実施スケジュール

項目	2022年	2023年	2024年
1-1 御大の館での情報発信 (高森町案内所)	実施体制整備 情報収集の仕組みづくり 情報発信手法の整備 発信 ホームページ連携	情報発信の継続 多言語対応	情報発信の継続 多言語対応
1-2 周辺自治体連携	意見交換の場を設定 連携方針の策定	連携事業の実施	連携事業の実施 地域連携推進組織設立

3. 取り組み内容

◎コミュニケーション部会構成員

- ・部会長 : 佐々木
- ・部会員 : 小原・藤木聡

◎実施項目

項目	目的	内容	担当
2-1 ホームページの運用	高森人記事を拡充し、人の魅力を発信することで交流人口創出を目指す	継続的な記事の作成 ホームページへの誘導施策 域内の最新情報を収集及び発信するための仕組み作り	・佐々木
<内容詳細>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ HP及びSNSのアクセス解析（月次報告） ・ HP及びSNSの紹介カードの作成 ・ 掲載記事の継続拡充 ・ 閲覧者増に向けた広告展開 			
2-2 Weを活かした双方向コミュニケーションの実施	SNSを通じて日本及び世界の人とのつながりを構築する	Facebookアカウントの継続運用 Instagramアカウントの継続運用 多言語アカウントの運用方法の検討	・事務局
<内容詳細>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSアカウント運営方針の作成 ・ SNS記事発信計画の作成⇒HP記事との連動 ・ ファン獲得に向けた広告展開 			
2-3 あったかもりまち自慢活動	町内及び町外の高森町に愛着を持つ人を増やす	フォトコンテストの継続運用 フォトコンテストとリアルの交流をかけた合わせた取組の検討	・事務局
<内容詳細>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民を巻き込む等、実施3年目を迎え、実施方法に関するバージョンアップを図る⇒「写真としてよい」という選考から、「まち自慢としてユニークな視点」などを検討⇒町外の人に参加できる、魅力発見ツアーなど ・ 投稿内容、選考結果を知らせる紙媒体の作成 			

◎実施スケジュール

項目	2022年	2023年	2024年
2-1 ホームページの運用	記事の拡充 閲覧者促進（GDN）	記事の拡充 交流コンテンツ> 予約	記事の拡充 交流コンテンツ予約促進
2-2 Weを活かした双方向コミュニケーションの実施	FBアカウントの継続運用 FBファン拡充（広告） Instaアカウントの継続運用	FBアカウントの継続運用 FBファン拡充（広告） Instaアカウントの継続運用	FBアカウントの継続運用 FBファン拡充（広告） Instaアカウントの継続運用
2-3 あったかもりまち自慢活動	継続実施（年二回） リアル交流（年一回） ※収穫祭	継続実施（年二回） リアル交流（年一回） ※収穫祭	継続実施（年二回） リアル交流（年一回） ※収穫祭

3. 取り組み内容

◎モノ・コト部会構成員

- ・部会長 : 片桐
- ・部会員 : 唐木・藤木かほる

◎実施項目

項目	目的	内容	担当
3-1 都市部マルシェ関係者との「関係人口作り」	都内で開催されるマルシェに出店することで、都内在住者及び生産者との交流を図る	年4回の出店 (6月・11月・12月・1月) 都内進学の出身者、わかもの特命係との連携	・片桐
<内容詳細>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ マルシェ出店計画の整理 計4回 ・ 出店備品の準備 ・ 恵比寿マルシェ年2回(6月、11月) / しんゆりマルシェ年1回(12月) / 銀座NAGANO年1回(1月) ・ 在東京のわかもの特命係との体制構築 			
3-2 滞在型交流プログラムの造成	農体験を活かした交流プログラムの造成	交流プログラムツアーの造成 ワーケーションプログラムの造成	・片桐
<内容詳細>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農体験を活かした交流プログラムの造成 受け入れ農家の調査 / プログラム内容の検討 / モニタリングツアー / 実販売 ・ 企業研修としてのワーケーションプログラム造成 受け入れ農家の調査 / 滞在施設等の検討 / プログラム内容の検討 / モニタリングツアー / 実販売 			
3-3 文芸愛好家をつなぐ関係人口づくり	文芸愛好家とのつながりを継続し、交流を図る	Youtubeの継続運用	・唐木
<内容詳細>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画作成内容に関する再計画立案 ・ 地元でのインフルエンサー (Youtuber) 公募 ・ 動画作成の補助業務 ・ Youtubeアカウント管理 			

◎実施スケジュール

項目	2022年	2023年	2024年
3-1 都市部マルシェ関係者との「関係人口作り」	恵比寿マルシェの出店 わかもの特命係との体制構築	出店継続 体制継続	出店継続 体制継続
3-2 滞在型交流プログラムの造成	調査 モニタリングツアー実施	販売開始	販売継続
3-3 文芸愛好家をつなぐ関係人口づくり	Youtuber募集 アカウント開設	継続	継続